

意見①

■近年、ヤングケアラーや老老介護などが社会問題となっている。介護をする家族に対する対応策はどのように考えているか。

◆認知症高齢者を介護している家族等の不安に対する支援や、近年の複雑化・複合化した課題に対応するため、各事業において、家族や高齢者本人に対する支援策を推進し、年齢や分野を超えた相談支援体制の更なる充実を図る。

意見②

■第9期計画の基本理念に「希望を持って」という文言を加えているが、どのような考えで加えたのか。

◆望む内容の大小は関係なく、高齢者自身が具体的目標を持つことで、より活力ある生活が送れることが期待でき、それが日常生活の中での僅かな希望であっても、自身の気持ちの明るさをもたらすものとなり、「生きがい」へと繋がる。また、自身の最期をどう迎えるか、家族へ本人の希望を伝えることで、本人が望む生き方に繋がりと、高齢者の尊厳の確保という意味でも希望を持つことは大切である。という意味を含めたもの。

意見③

■高松市データヘルス計画と本計画はどのように連携しているのか。

◆高齢化の進展や生活習慣病の増加等により、医療や介護の保険給付費は、今後も増加すると予測されている。本市では、国民健康保険及び介護保険に係る保険給付費の適正化について、関係課が連携して取り組み、データヘルス計画に基づき、介護給付の適正化を推進している。

意見④

■「外出支援の充実」について、運転免許証の返納や、公共交通機関の利用が難しい方もいるため、支援策を考えてほしい。

◆アンケートにおいて、「生活の中での不安や困りごと」の問いについて、「体力や体調の変化」や「急病や自然災害などの緊急時に関する不安」が上位を占めていたが、外出支援に関するニーズも高かったため、引き続き、関係課と連携を図りながら、地域の実情に応じた解決策の検討を行う。

意見⑤

■令和2年度以降、市民満足度の低下がみられる。アンケート結果で、相談できる場が欲しいとか、認知症の取組を知らない人が多い。市が行っている取組について、市民の認知度が低いことが、市民満足度の低下につながっていないか。

◆コロナ禍では、人との接触を避けるため、事業への参加者数が制限されたり、高齢者の社会参加の機会が減少したこと等も、市民満足度の低下に影響していると思われる。対応策としては、市民の不安に対し、気軽に相談できる場の確保など支援体制の更なる充実や、関係機関等との連携を推進するとともに、市民にとって、わかりやすく、必要な情報の提供に努める。

意見⑥

■国の基本指針で、「3. 地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び介護現場の生産性向上」について、「生産性向上」という文言を「質の向上」とすべきだと思う。

◆本市の計画においては、「第4章 介護保険事業の円滑な運営」で、「介護保険サービスの質的向上と業務の効率化」について記載する予定。